

教校部「特殊講義（大行名体）」藤澤信照

①講義の意義と概要

【意義】

教校部の講義の中で「特殊講義」といわれる講義は、この「大行名体」と「信疑決判」の二つですが、いずれも普通の講義と異なり、「会読」とよばれる問答形式によってお聖教を研鑽していくもので、講師が担当するのは会読指導ということになります。仏さまの教えを正しく理解する方法として、伝統的に問答という研鑽の形式を大切にしてきました。これを「会読」と名づけるのは、特に浄土真宗ではお聖教の言葉をよりどころとして、仏さまの心を学んでいくからです。

会読を行う際には、お聖教に説かれる内容にしたがって論ずべきテーマを決めます。これを「論題」といいますが、この論題によって明らかにすべきこと（題意）を見据え、問答形式によって、ずそのことが説かれている文（出拠）を挙げ、次にこの論題や論題にまつわる言葉の概念を規定し（釈名）、その概念規定にしたがいつつ、出拠の文に説かれていることがらを明らかにする（義相）、というのが「会読」というお聖教の研鑽方法です。こうして、お聖教に説かれていることについて、お互いに議論を交わすことで、より深く仏さまの心を理解していくことができるようになります。詳しくは、講義を進めながら少しずつ説明をしますので、実際の講義の場面で少しずつ慣れていただきたいと思います。※講義中に、学生による会読（問答形式）を行います。

【概要】

私がこれから担当する論題は、前期は「大行名体」です。この講義は専精舎夏講（5日間にわたる集中講義）に行われる会読に向けて、論題の内容を理解し、問答ができるように演習を行います。テキストは学生の皆さんに配布される、令和三年度専精舎論題「大行名体」会読ノート（藤澤信照述）を用います。なお、後期は専精舎の最終日に発表される来年度の論題を扱うこととなります。

さて、親鸞聖人は、主著である『顕浄土真実教行証文類』（『教行証文類』と略称）に、善導大師の称名正定業説を承けて展開された、法然聖人の念仏往生の教説を、曇鸞大師の『往生論註』の教学によって跡付け、本願力回向の大行・大信として体系化していかれました。

中でも「行文類」大行出体積には、「大行とはすなはち無碍光如来の名を称するなり」と大行の体を出され、つづいて「この行はすなはちこれもろもろの善法を撰し、もろもろの徳本を具せり。極速円満す、真如一実の功德宝海なり。ゆゑに大行と名づく」と、この行が大行と名づけられる理由が述べられています。

論題「大行名体」という論題は、親鸞聖人が「行文類」大行出体積に述べられた、大行の名義と、その体を正確に領解しようとするものです。論題「大行名体」は「行文類」の中核的な問題を扱う論題であるということを考慮に入れて、これから一緒にこの論題について学んでいきましょう。

②自己紹介など

【自己紹介】

藤澤 信照（ふじさわ しんしょう）

1958（昭和33）年、鹿児島県川内市（現、薩摩川内市）生まれ。鹿児島大学理学部卒業。行信仏教学院ならびに行信教校卒業後、滋賀県東近江市浄光寺に入寺。その後、龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程修了。

現在、行信教校講師、元布教使課程専任講師、滋賀県東近江市浄光寺住職。
著書

『親によばれてー浄光寺報法話集ー』

共著『大きな字で読みやすい 浄土真宗やわらか法話2』

共著2018（平成30）年真宗教団連合法語カレンダー『月々のことば』

論文 『行信学報』などに、多くの研究論文を発表

【学生さんへのメッセージ】

行信教校には昭和56年に入学し、滋賀県のお寺に入寺するまで、5年半ほど在籍し、寮生活をしていました。講師ではありますが、皆さん方の先輩でもあります。寮生活、学校生活についてのこと、勉強方法について、気軽にたずねてもらったらうれしいです。

滋賀県のお寺は公共交通機関が不便なところがあるので、毎回、車で約1時間半かけて学校に通っています。お寺のあるあたりは、大阪の町中と違って、自然がいっぱいのところです。機会があったら、ぜひ遊びに来てください。

趣味は音楽。クラシックギター演奏。地域のコーラスの指導もしています。

【おすすめの本】

梯實圓著『聖典セミナー 教行信証』[教行の巻]（本願寺出版社）

梯實圓著『親鸞教学の特色と展開』（法蔵館）所収「空華学派の特徴」

石田慶和集Ⅱ『教行信証入門』（本願寺出版社）

普賢大圓著『真宗行信論の組織的研究』（百華苑）

『真宗叢書』第二巻、真宗百論題集下（臨川書店）四九、大行名体